

陳 情 文 書 表

(教育委員会)

受 理 番 号	1 3 4 6	受 理 年 月 日	令和5年12月14日
件 名	学校調理方式による中学校給食の実施		
要 旨	<p>京都市で全員制の中学校給食の導入を検討されるというニュースに、ようやく長年の保護者の願いが実現されると喜んでいました。しかし、検討会の意見集約に先立ち、コンサルタント会社の調査に基づき、センター方式が最善との結論を教育委員会は出した。小学校のような学校調理方式を望む多くの保護者のアンケート結果にもかかわらず、学校から遠く離れた場所でのセンター方式で、しかも1か所で63の中学校に2万6,000食をトラックで配送するという、余りにも食育とは懸け離れた方法である。</p> <p>文部科学省の定める学校衛生管理基準の2時間以内に喫食できる保障はなく、安全性に大きな不安がある。また、学校調理方式と異なり、出来立てのおいしい給食を食べることも、子供たちと調理員との触れ合いも望めない。</p> <p>何より、この調査が、自校調理方式や親子・兄弟調理方式と呼ばれる方法をきちんと精査した結果とは思えない。全国では当たり前前に実施されてきた中学校給食が、この京都市では後れに後れてようやく実現されることになったにもかかわらず、採算性ばかりを追求していることが誰の目にも明らかである。子供たちや子育て世代には、京都市が子供の成長や食育を大切にしている自治体だとは、とても感じ取れないだろう。京都市の若い子育て世代の人口流出が大きく報道されている折、どこの自治体にも負けないくらいのすばらしい給食（小学校では実現している）を中学校でも導入することが、真に子育て環境日本一への道ではないだろうか。</p> <p>ついては、以下のことを願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 大型センター方式の導入をやめ、小学校のような温かい全員制の中学校給食を学校調理方式で実施すること。 2 各学校や地域の実情及び予算を再度精査し、自校調理方式や親子・兄弟調理方式で実施できる学校から順次導入を始めること。その際には、行政区で区切らず、距離の近い学校については、親子・兄弟調理方式の導入を可能とすること。 3 きめ細かいアレルギー対応などは、学校調理方式でこそ目指すことができる。小学校も含め、子供たち一人一人を尊重する学校給食を目指すこと。 		
陳 情 者			
回付委員会	文教はぐくみ委員会		